

令和4年度第1回千葉県食品ロス削減ネットワーク会議要旨

- 1 日 時 令和4年8月25日（月） 午後3時～4時30分
- 2 場 所 Zoomによる
- 3 出席者 出席者名簿のとおり
- 4 会議内容

- 1 開会あいさつ
- 2 ネットワーク会議の進め方について
- 3 意見交換
 - (1) 今年度の取組について
 - ・てまえどりの実施について
 - ・フードドライブの実施等について
 - (2) 食品ロスに関する事業者アンケート調査について（中間報告）
 - (3) 次年度の取組について

（事務局）

ただいまから、令和4年度第1回千葉県食品ロス削減ネットワーク会議を開催いたします。私は、本日の司会を務めます、環境生活部循環型社会推進課の久保田と申します。よろしく願いいたします。

この会議は、千葉県食品ロス削減ネットワーク会議設置要綱第6条の規定により原則公開となっております。本日の会議について傍聴希望はありませんでした。

開会に当たりまして、千葉県環境生活部循環型社会推進課長の城之内より御挨拶申し上げます。

【1 開会あいさつ】

（県循環型社会推進課長）

循環型社会推進課長の城之内でございます。皆様には、日頃から、本県の環境行政に

御理解・御協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

このネットワーク会議は、千葉県における食品ロスの削減に向けた効果的な取組について御意見を伺うため、昨年10月に設置させていただきました。

本日は、新たにお引き受けいただいた5名の方も含めまして、9名の皆様に御参加をいただいております。皆様には、大変お忙しい中お時間をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、昨年度に引き続きまして、公益財団法人 流通経済研究所の石川様にコーディネーターをお願いしております。どうぞよろしく願いいたします。

昨年度は2回の会議を開催し、啓発事業のあり方や事業者アンケートの実施に関して御意見をいただきました。

本日は、昨年度に御意見をいただいた「事業者アンケート」の実施状況や、今年度実施した啓発事業などについて御報告をさせていただき、これらを踏まえた今後の取組などについて、御意見を頂戴したいと思っております。

皆様方それぞれのお立場、御見識に基づく御意見をお伺いしまして、連携をとらせていただきながら、食品ロスの削減を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞ忌憚のない御意見をくださいますようお願いいたします。

本日は、よろしく願いいたします。

(事務局)

大変恐れ入りますが、課長は公務のため、ここで退席いたします。

それでは、改めまして事務局より本日の会議について若干の補足をさせていただきます。会議の趣旨、目的等につきましては先ほど城之内から御挨拶差し上げたとおりですが、事務局としては、事務を進めるに当たり、また施策を考えるに当たって、本当に忌憚のない御意見、率直な御指摘、県という役所にしかできないようなことを率直にお伝えいただければありがたいと思っております。

私事になりますが、3月までオリパラを迎える観光客の受け入れとか、その前は関係人口づくりとか、子育て支援とか色々やってみまして、この4月から環境、食品ロス等に携わることになりまして、非常に奥行きのあるとても面白い仕事を今させていただいていると思っております。

例えば貧困対策であったりとか、災害時の非常食であったりとか、もっと言えば会社

の経営改善に資するとか、地域活性につながるかもしれないとか、そういうような、単純にゴミの削減ということだけではなく、その奥に広がるいろんな世界が見えております。そういった者が、今回担当させていただいておりますので、本当に率直に、多岐に亘る御意見を期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日、事前にお送りした出席名簿のとおり、御参加いただいておりますが、私のほうから一人ずつお名前を読み上げさせていただきたいと思っております。御発言につきましては後ほどの意見交換のところで改めてそれぞれからお言葉をいただければと思います。

(出席者名簿順に氏名読み上げ)

また、本日のコーディネーターを務めていただきますのは、公益財団法人 流通経済研究所の石川友博様です。県からは安全農業推進課、事務局として循環型社会推進課が出席しております。

それでは早速議事に移りたいと思っておりますが、ここからはコーディネーターである石川様に進行をお願いいたします。石川様どうぞよろしく願いいたします。

(コーディネーター)

よろしく申し上げます。今日は私も県庁のほうにお邪魔しまして、県の皆様と会議を進めております。事務局からもありましたが、忌憚のない意見を言っていただける会議になるように、リモートだとやりづらいところもあるのですが、皆様の御協力をいただいてやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

この後の議論の進め方ですけれども、次第に2と3という項目がありまして、その2つを扱っていきます。まずはじめに「ネットワーク会議の進め方」ということで、今後の方針とか実施方法につきまして、事務局から御説明をいただきます。

【2 ネットワーク会議の進め方について】

(事務局)

それでは、今後のネットワーク会議の進め方について御説明させていただきます。

今年度は全2回を予定しております。次回は12月か1月頃に、アンケートの最終報

告と次年度事業の内容について御意見をいただく場を設けたいと思っております。昨年度御説明した段階では、年3回とお話をしておりましたが、このように一堂に会する会議は皆様の御負担等も考慮して2回とし、その他は必要に応じてメール等でやりとりをさせていただきながら意思疎通を図っていきたいと考えております。

本日は、今年度県で実施した啓発等の御報告と、今年6月から7月にかけて実施した事業者アンケート調査の中間報告、速報のような形になりますが、報告をさせていただき、これらを踏まえて、今後どのような取組を行うのが効果的か御意見をいただきたいということで、先ほど当課の課長ないし私のほうから御説明したとおり、本当に率直な御意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(コーディネーター)

ありがとうございました。「ネットワーク会議の進め方」ということで、今回の趣旨・内容と、今年度の実施回数は2回で考えているということの御説明をいただきました。

まずこちらについて、現段階で御意見とかあれば確認しておきたいと思えますけれども、こういった方向で基本的にはよろしいでしょうか。

ではいったん、進めさせていただきたいと思えます。

【3 意見交換（1）今年度の取組状況について、（2）事業者アンケート調査について】

(コーディネーター)

次に「3 意見交換」の議事に入っていきたいと思えます。ここで、次第のほうでは「(1) 今年度の取組状況」として、「てまえどり」と「フードドライブ等」、「(2) 事業者アンケートの中間報告」、「(3) 次年度の取組について」となっております。これらのうち(1)と(2)が事務局から御報告する内容で、御意見をいただきたいと思っております。(3)が皆さんに御意見をお伺いする時間ということで考えておりますので、全員に当たるように御発言の機会を振っていききたいと思えます。

それでは事務局のほうから「てまえどり」と「フードドライブ等」、「アンケート調査について」御報告をお願いします。

(事務局)

(1) 今年度の取組状況について

まず、今年度の「てまえどり」の取組について御報告をさせていただきます。

消費者に対する「てまえどり」の呼びかけにつきましては、昨年12月からセブン-イレブン様やデイリーヤマザキ様はじめとするコンビニエンスストアで、また3月からは、イオンリテール様やコープみらい様など食品スーパーでも御協力いただき、実施してきたところですが、今年6月の環境月間に新しいPOPを作成し、掲示店舗数を拡大して実施しております。新しいPOPの掲出には、セブン-イレブン様、ファミリーマート様、ローソン様、ミニストップ様、デイリーヤマザキ様に御協力いただき、店舗数としては約2,700店舗に御協力をいただいています。また、コンビニエンスストア以外にも、POPのデザインを県のホームページで公開しており、個別に御連絡をいただいた食品スーパー様などにおいても掲示に御協力をいただいております。

次に、今年度のイベント出展、フードドライブ等について御紹介をさせていただきます。1つ目ですが、幕張メッセ国際展示場ホールにおいて開催されました「県民のちばワクワクフェスタ 2022」において、食品ロスを含めた3Rの取組に関する啓発物資の配布やアンケートのほか、フードドライブを実施しました。フードドライブについては、県庁実施分を含め16.9kg回収し、フードバンクちば様に寄付いたしました。

続きまして、イオン津田沼店で行われた「千葉県産フェア」におきまして、マイバスケットの販売と併せて、3Rの取組に関する啓発物資の配布やアンケートを実施しました。

また、今月14日にそごう千葉店での「ちばSDGsフェスティバル」に出展し、食品ロスに関するパネル展示、啓発物配布のほか、フードバンクちば様と連携したフードドライブを実施し、約26.7kgの食品を回収しました。

なお、参考ですが、イベントにおいて来場者アンケートを行い、結果、3Rの認知度は「言葉も内容も知っていた」が54%、県の「ちばエコスタイル」の認知度は「言葉も内容も知っていた」が13%、県民の方御自身が普段から行っている取組についてはご覧のような形になっており、「マイバッグ持参」が91%、「食べ残しをしない」が72%、「てまえどり」については28%、などとなっております。

(2) 事業者アンケート調査について

続きまして、次第（２）の「食品ロスに関する事業者アンケート調査」につきまして御報告させていただきます。

前回の会議で皆様からいただいた御意見も踏まえ、アンケート調査支援業務を受託いただいている流通経済研究所様にもアドバイスをいただきながら調査票を作成し、今年６月２０日から７月２９日にかけてアンケートを実施しております。

県内の食品関連事業所を営む事業者約２７，０００者から約１，０００者を抽出しアンケートを郵送しました。回答は郵送又はメールで受け付けております。

８月３日現在までの回収数ですが、１５２通となっております。今回の集計につきましては、時間等の都合もあり速報的なものとなっております。回収数も全事業者数に対すると少ないものになっておりますので、これで県全体の傾向を示すというのは難しいところもございますが、御回答いただいた貴重な御意見となっておりますので、今後の取組を検討するための議論の素材としていただきたいと思いますと思っております。

まず、食品ロス削減の重要度についての認識についてお伺いした質問では、全業種で見ますと、「重要である」が５１と最も多く、業種別には右側の数字のとおりになっております。

次に、細かくなりますが、食品ロス削減の取組状況や課題についてお伺いした項目です。３ページには全業種の表を載せてありますが、例えば「すでに行っている」取組として上位に挙げられましたのが、「発注や生産計画における予測精度の改善」や、「保管状況の改善、容器の改良」など、また、「今後行ってみたい」取組としては、「削減目標の設定」や「保管状況の改善、容器の改良」などが多くなっております。また一方で課題としましては、食品ロス削減目標の設定については、「時間や人手が足りない」が多く、「保管状況の改善、容器の改良」につきましては「費用がかかる」などが課題として多く挙げられておりました。以下７ページまでは業種別にまとめた表になっております。

続きまして８ページですが、すでに行っている取組の中で特に成果につながっているものについてお伺いしましたところ、「予測精度の改善」「歩留まりの改善」「マネジメント活動」などが上位に挙げられております。

９ページ、普段行っている食品廃棄物等の量の把握方法については、「把握していない」が３４、「計量器による計測」が３３、「処理業者等への委託量から推計」が２５などとなっております。廃棄量については御覧の表のとおりとなっております。

また、食品ロスの内訳につきましては、製造業については「原材料・仕入品のロス」と「売れ残り」、卸売業については「仕入れ品のロス」「返品」、小売については「売れ残り」が多く、外食については「食べ残し」「調理時のロス」の順となっております。

続きましてフードバンク活動への協力意向に関する質問では、御覧のとおりとなっており、「今後協力できそう」な取組として「規格外品・余剰品等の食品提供」が22、「社員等がボランティアとして活動に参加」が10、そのほかの項目についても「今後協力できそう」との回答が複数見られております。一方で課題としては、「提供可能な食品がない」が64、「時間や人手が足りない」が53、「フードバンク側の食品受取条件に適合しない」が30などとなっております。

そのほか、自由記載欄に行政への要望等様々な御意見をいただいております。「フードバンク情報の提供」や「受注リードタイムの見直し」「設備導入の補助金」「揚げ物や総菜の売れ残りを提供したい」「家庭での食品ロスへの啓発を増やしてほしい」「販売期限の見直し」「規格外野菜の活用」「情報や取組事例を示した方がよい」「個人個人の理解が必要」など様々な御意見をいただいております。事務局から報告は以上になります。

(コーディネーター)

ありがとうございます。事務局のほうから「てまえどり」とイベント出展、調査の中間報告をいただきました。「てまえどり」はコンビニの主力チェーンで相応の規模でやっていたら、2か月くらい経ったところだと思いますけれども、何かやっていたらいるサイドからリアクションはありますか。

(事務局)

事業者さんに対するアンケートについては現在とりまとめ中となっておりますが、「やってよかった」「廃棄が減った」などのお声もいただいております。

(コーディネーター)

わかりました。イベントのほうは、出展されてフードドライブを実施されたということですが、出展は県の名義でされて、フードドライブはフードバンクさんと一緒にということですね。

(事務局)

はい。

(コーディネーター)

ありがとうございます。その後調査の説明をいただいて、調査結果はまだ中間ということで、ロスの内訳や取組の状況が少し見えてきているかなというところかと思います。この後次回の会議までにはその辺りの固めと、あと出てくる内容としてはどういった内容が出てきますか。

(事務局)

まだ御回答の件数をまとめたただけになっているので、例えば食品ロス削減を重要と考えている事業者がどういう取組をしているかというクロス集計等を今後アドバイスいただきながらしていきたいと思っております。

(コーディネーター)

ありがとうございます。ということでございますけれども、委員の皆様からぜひ何かございましたら意見をいただきたいと思っております。ここは挙手いただいて御発言いただければと思いますが、何かございますでしょうか。

県社協の会田様、お願いいたします。

(県社会福祉協議会)

会田と申します。御説明ありがとうございます。アンケート調査の件でお伺いしますが、約1000者抽出されてまだ回答が152、約15%と、かなり少ないのかなと思われました。御説明にもありましたが、これで全体が見えるのか、千葉県傾向が分かるのかというのはちょっとどうなのかと思っておりますので、事務局としてこういった形で依頼をされたのかなとか、また8月3日以降増えてパーセンテージが上がるのかとか、その辺り教えていただければと思います。よろしく申し上げます。

(コーディネーター)

では事務局のほうからよろしいでしょうか。

(事務局)

ただいま御指摘の件ですが、まさしく仰るとおりでして、我々も正直なところもう少し回収したいとは思っておりますが、実際には抽出した事業者の実際の業態というか、実は右から左に流しているだけで食品ロスがそもそも出ないとか、総務省のデータベースから抽出したのですが、コロナの影響でお店が大分縮小してしまっているとか、何を言っても言い訳にしかならないのですが、アンケートに答えようがないという方が結構いらっしやったり、そういったことも影響して数が伸びてこないのかなと思っております。

今後増えるのかということに関しては、いったん締切ということで設けた日を過ぎておりますので、ここから大量に回答が増えるということ言いにくい状況ですが、督促をしながら少しでも数を増やせるような努力はしたいと思っております。

また、これで千葉県全体を示せるのかということにつきましては、これも言い訳にはなってしまうのですが、そもそも1,000者ということですので、いわゆる定量という意味では、正確な合計を出せるような、そもそもそういう調査ではなかったもので、定性的なもの、実際に取り組まれている方たちがどのように取り組んでいるかとか、どういところで手応えを感じているか、やるに当たってこういった課題が出ているとか、そういったところを定性的に把握して、それを読み取りながら実際の施策につなげていくことができると思っております、その辺りはいちばん最後の、言葉で出している部分などもしっかり受け止めながら、どういったものがあるのかということを考えていきたいと思っております。

また、最後に1つ付け加えさせていただくと、今回のアンケート調査は千葉県ならではの何か特徴とか、課題というのが見えるのかなということで、あえて国がやっている中、県でもということでやらせていただいたのですが、やはりなかなか、千葉県だから特に発生しているというような特徴が際立ったかということとそういう形にはなっておらず、一般的な回答に留まってしまっているところがございます、その辺りももう少し中身を掘り下げたり、場合によってはアンケートに回答いただいた方にさらにヒアリン

グしたりすること等で補強ができればと考えているところです。

(県社会福祉協議会)

ありがとうございました。

(コーディネーター)

よろしいでしょうか。ちょっと私からも補足で、御承知いただいているのかもしれませんが、前回会議までに皆様に御相談している段階では、「事業所」に出す、というふうに御説明していたかもしれませんが、最後の検討で、それを「事業者」に変更しまして、千葉県内に事業所のある事業者に送っております。ですので、回収が例えば1でも、事業所の数としては20とかがカバーされている可能性もあると。一方で取組としては $n=1$ として上がってくるのですが、カバーしているのは、この数よりも事業所ベースで見ると広いというようなイメージだけ、補足させていただければと思います。

そのほかいかがでしょうか。

それでは、ここまでの取組ということで、「てまえどり」「フードドライブ」「アンケート調査」に関して報告をさせていただきました。

【3 意見交換（3）次年度の取組について】

(コーディネーター)

この後、議事次第の（3）の「次年度の取組」というところについて、今までの調査結果とか、なかなか、ここから紐解いて御発言を今すぐいただくというのは難しいかもしれないですけども、昨年度から実施している「てまえどり」にも関わられている事業者さんもいらっしゃいますので、それに関するお話ですとか、その他日ごろの御活動やお考えになられている食品ロス削減につながるテーマについて御意見をいただきたいと思っております。と申しますのも、御存知のとおり官公庁では今の時期、来年度に何をやるかを一生懸命考えているところでもありまして、そういった計画にも貴重なお声を反映していきたいと思っておりますので、今日は何か集約するような形ではなくて、色々意見をいただいて場を締めたいと考えておりますので、よろしくお願いま

す。

時間は4時半くらいまで使って意見交換ができればと思っております。せっかくですので皆様お一人お一人に御発言をいただければと思っております。いつも名簿の上から順で御発言をお願いしております、恐縮ですが、専修大学の渡辺先生、何か御意見をいただきましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

(専修大学 教授)

渡辺です。今の段階だと何も言うことはないです。今年度、去年やったことで何かインプットができて、それに基づいてどうするかみたいな、そんな議論だったらできますけど、インプットもないというか、100くらいの回答しかない中で言い訳だけ聞かされる会議では参加する意味が全くないじゃないですか。どういう趣旨でやっているのかが全く理解できないまま今まで30分過ぎて、それで何か発言を求められても、どうなんでしょう。

でも、何か千葉県として独自のことをやるとしたら、千葉県らしさということという、やはり大きな消費地と産地と両方持っている県なので、その全体像を把握するというのはすごく、日本全体の食品ロスの発生であるとか抑制であるとかということに参考になる感じがしますし、県としても、そういう産地に近い所、あるいは工業をやっている所もありますし、それから消費地もあるというその中で、それぞれどういう状況なのかを把握するとか、そういう自治体の取組を、去年も多分言ったと思うんですが、自治体と連携しながら、あるいは政令指定都市の千葉市とも連携しながら、現場を抱えているところと、現場というか消費者、世帯である家庭での発生であったり、農業を含めた産業からの発生であるとか、そういったところの全体像を、県ならではの掴むとかを、やるのがよいのではないかなと。今回のアンケートも、地域別に発生状況が違っていたりとか、考え方が違っていたりとかいうのを捉えられれば良いのですが、今の集計状況だと、クロスしても、意味のあるクロス集計ができるようなものではないようですが、定性的に捉えるという御発言もありましたけど、事例として地域ごとにどんな違いがあるのかを見るのも良いかもしれないし、なんてことを千葉県ならではのことで考えられないのかなと思いました。

全体をざくっと見れば、国というか一般的な発生状況と同じなんだろうけど、そう

いう特徴を捉えるというのが一つの方向かなという印象です。

イベントをやってもしょうがないと思うんですけど、単発のイベントをやっておく一部の消費者に伝えるよりは、もっと県ならではの産業構造、世帯構造を踏まえた取組というのを考えてほしいなと思います。

(コーディネーター)

ありがとうございます。今の御意見にあったように、特に調査についてはもう少し深掘りができるのではないかとということで、色々な分析の視点について御意見があったので、定量的にというより定性的に掘っていくということになると思うんですけども、それをやっていただいて、見えたものを出していくということで、進めていただければと思います。

それでは続いて、山崎製パンの山田様、お願いできますでしょうか。

(山崎製パン)

当社山崎製パンについては、日ごろから本日御出席の流通事業の皆様、また卸売をされている皆様のお力をいただいて、千葉県内のいわゆる最終消費者の方にパンをお届けさせていただいています。当然パンというものは消費期限が長くても4日から5日くらいのもので、和洋菓子については製造した翌日や2日後には期限が来てしまうという商品もございまして、食品衛生上の課題でもございますけれども、食品ロスというものと期限というものが、ネックになっているような部分もございます。

また、競合する製パンメーカーとの差別化の中で、やはりサービスを重視すると、なかなか食品ロスは二の次になってしまうということで、なかなかそういった点もこの食品ロスを考える中で、とはいえ一般のお客様にたくさんの商品を手にとっていただいたり買っていただきたいという中でどうしても品種が増えていったりとかいうところもございますし、どうしても事業を行っていく中で、最優先にこの食品ロスというものを考えられない状況もあるというようなところでございます。

また本日千葉県の方が主催でやっていただいていますけれども、私どもの食パンはカロリーも高く、ロスが発生した際に豚のエサとして活用しています。しかし残念ながら豚のエサを加工いただいている業者さんは茨城県にございまして、なかなか千葉県内

で飼料化をしていただく事業者さんはあっても、処理の量だったり物流の問題であったりということで、そういった事業は他の県に逃げてしまっている点もございますので、そういったところも含めて、循環型社会を考える中で、千葉県内で循環型の社会活動ができるように今後も様々な取組をいただいて、せっかく我々も千葉に2工場ございますので、そういった、産業を他の県に逃がさないような仕組みづくりも含めて、様々な御検討いただければというふうに思います。

(コーディネーター)

ありがとうございます。県のほうから何かコメントはありますか。

(事務局)

はい。ありがとうございます。

先ほど渡辺先生からの率直な御意見も含めて、2つの御意見すごく参考にさせていただいております。今、たしかに再生利用という観点で、堆肥だとか家畜のエサだとかいう話は、大小様々に県内にあるというのは承知しております。それから、渡辺先生のお話にもありましたけれども、産地という観点では規格外野菜に関する取組についても視野に入れながらやっていく必要があるのかなと思っておりまして、そういう意味では、我々の中でいうと農林部局などとの意思疎通・協調などもしっかりやっていないといけないなということと、あと、産業を他県に逃がしているというところはすごく大きいなというふうに思っております。3月まで商工労働部にいた私からすると、食品ロスは環境の施策だけでなく、どちらかというと商工業の経営改善とか、そういうこともあるので、商工部局との連携みたいなこともしっかりやらないといけないと、問題意識を持っているところで、そこを今如実に仰っていただいたものと思っております、今後施策を考える上で、環境生活部内だけで考えていてもだめなんだなというのを改めて認識したところです。

(コーディネーター)

ありがとうございます。それでは続いて、米屋の指田様お願いいたします。

(米屋)

米屋の指田でございます。今、弊社の市場としては、製造業で、先ほど山崎製パン様がおっしゃったように、流通業の各社を通してお客様にお届けしている部分と、弊社立地もありますけれども、成田の土産市場、それから千葉県内の路面店で直接消費者へ販売する小売店の市場があり、製造小売、製造卸というような形で多岐に亘って製造させていただいているような状況です。製造業という中で、弊社としても、先ほどのアンケートの中にもありましたけれども、やはり歩留まりの向上を含め、いかに無駄なく原料・資材の利用ができるかということが一番大きな課題で、生産の計画において ルートが増えるとアイテム数が増えていきます。そのなかで製造ラインの製造能力はあるということで、消費期間の短い商品（消費期限表示のD+2～5日）という商品を省いて考えても、今メインになっているのが焼き菓子類ということで、どらやき・饅頭は賞味期間1ヶ月くらいになります。一般的に、お取引をさせていただいているところでは、いわゆる3分の1ルールや、小売では、お客様により早く製造したものをお届けしたいということで、必要数量に合わせて多品種の製品を、製造リードタイムに沿って計画に反映するかということが大きな課題になっています。

すでに取り組んでいる様々な課題がありますが、やはり小ロット多品種が目標で、今までは歩留まりを考え、大ロットで作った方が生産効率は良いですが、作りすぎで出来上がったものの販売に困るというものが出てきます、できるだけ過剰生産品を出したくないということで、小ロット多品種の実施の中でいかに歩留まりを上げるかというのが一番の大きな課題になっております。

この辺はオペレーター、機械の作業に従事する者の技量、教育に差がありますので、技量の均一化といいますか、一定のレベル以上の作業者を複数人育てていくというような事が、今の取組の内容になります。ただ、天候や様々な理由などで、生産数の見込み違いなど過剰生産が出てしまうことも実際はありますので、その場合は食品ロスの削減に努めるため、成田市の社会福祉協議会様に御協力いただいて、月に1回、施設のほうに寄贈させていただいたり、アウトレット販売として直接消費者の方へ工場での小売り事業を月に1回程度開催させていただいています。

お話の出ているフードドライブ、フードバンクということになりますと、弊社も取り扱い製品の賞味期間という課題がありますので、取組については今後の課題とお

ります。歩留まりの向上は社内の努力が一番大きいんですけども、出来上がったものについては少し広く、食品ロス削減の方法が広がると良いと思います。

(コーディネーター)

ありがとうございます。こちらから御説明した県の取組の内容ですとか、調査の方で何かお気づきの点とかあればと思いますが。

(米屋)

弊社もアンケートに回答させていただきましたが、数字を見まして各企業様の状態によって回答が変わってくる部分はあるでしょうけれども、弊社としては、概ね集計に沿ったもので特に問題は無く理解いたしました。

(コーディネーター)

ありがとうございます。次に、国分首都圏の池田様お願いいたします。

(国分首都圏)

国分首都圏の池田でございます。我々国分首都圏は卸売業ということで、メーカー様と小売業様の間に立ついわゆる問屋業をやっていますが、千葉県独自のという発言に今回ならないのは御容赦いただきたいと思います。アンケートに答える際にも事務局にはそういったところをお伝えしたのですが、国分首都圏全体感としての回答になるというところ、また、私が所属している部署が受発注の部署になりますので、ピンポイントで食品ロスを抱えている部署ではないということで、お答えが求めているところと違うことになるかもしれませんが、今取組として行っていることを発信したいと思います。

食品ロスに関してデータ的な話で言えば、製造業、小売業、外食産業、一般家庭の中から比べると、ちょうど間に立つというのはあるでしょうけれども、卸売業のパーセンテージとしては小さくなっています。とはいってももちろん何もしていない訳ではなく、口にするものを扱っておりますから、食品ロスについてはかなり厳しく対応しています。

まずは受発注のところで言いますと、最近では、発注のツールに対してはかなり大き

な投資をしており、AIの需要予測、特に天候、気温だとかそういった情報をいかに読み込んでメーカー様に発注をかけるか、といったところも研究し始めたといいますか、投資対象になってきています。まだ全国展開までは至っておりませんが、そういった動きがあるということがございます。もちろん全国のメーカー様も小売業様もAI需要予測を使いながら製造計画・発注計画を立てていますので、そこの連携が直近のキーになってくるのかなと思っています。

次に、鮮度の緩和について、よく聞かれる小売業様に納品するときは賞味期間の3分の2残しなどがありますが、それも慣行的なところで3分の2になっているということもありまして、実験的に、2分の1残し、半分までは許容するという取組も行っており、ロス削減につながっています。

また、物によっては不動商品になってしまうものもありますが、それを放置しておくとか廃棄、ロスということになりますので、処分販売のルール、スキームを作って、捨てることのないようにするという動きは全社的に徹底しております。

御紹介になりますが、セブン-イレブン・ジャパン様とJA様、国分グループ本社とコラボして、大分県産完熟かぼすサワーのような形で、傷みやすい完熟かぼすを製品化することによってロス削減につなげたり、小学校や中学校の子どもたちと一緒に、食べる、買うこと、捨てるとは、といった講座を開いたりもしています。

また、食品リサイクル施設、廃棄物処理施設見学会などもありまして、全国で何百名かの社員が見学をしたり、エコ検定というものがございますが、国分首都圏として年間100名が受かるようにゼミ活などをして、個人個人も環境について考えていきたいと思いますという取組をしているところです。

(コーディネーター)

ありがとうございます。発注、鮮度の緩和、処分販売のルール徹底と売り切り、消費者の啓発、食育と、社内のエコ検定というのは大変具体的な取組で、会社でやられているのはあまりお伺いしたことがないので、非常に興味深く拝聴しておりました。

続きまして、イオンの鈴木様お願いいたします。

(イオン)

ありがとうございます。鈴木です。当社でやっていることはちょっと置いておいて、今回のアンケートを踏まえて、我々としたら全国で事業活動している上で、千葉県ならではの特征があるかという、あんまりそこを見出すことは極めて難しいなと考えていまして、それは、店ごとの多少の特征があって廃棄量に反映するというのがありますけれども、そこに独自性を見出すとといったときには難しいのかなという話と、あとは回収率が低いみたいな話からすれば、なかなか回答が難しいような話もあれば、やっているのだけどどこまでの話をきちんと整理しているのか、というところは我々もレベル感が結構バラバラなので、本来事業者にきちんとやっていただくことを目的としたものであれば、しっかり個別の施策ごとのインパクトみたいなものを示しながらやっていくようなほうが効果的ではないかと思っています。これをやるとこれだけ減るんだとかこういうメリットがあるんだということを、本来食品ロスはかなり経営に直結している話なので、そういったことをきちんと推進していく必要があるだろうという話と、あとですね、個人的な関心事項でもあるんですけども、先程来出ている規格外の話ですとか、そもそもこの地域の中にいろんな優れたブランドがあるんですけども、それが、何かしら見えていないところで捨てられているものとか、そういったものがいくつかあるとしたら、それをきちんと加工するとか、アップサイクルみたいなことをして、もう1回きちんと価値のあるものに作り替えてブランド化していくような話というのは、ひとつ方向性としてはあるんじゃないかなと思っています。そういう意味だと、千葉県というエリアの中で、産地と製造メーカーと小売と消費者がどういうふうなところで連携していくか、みたいなところを整理していくと、県らしいものができるんじゃないかなというふうに思っています。

そういったことを申し上げる背景としては、サプライチェーン全体でどこでどういうふうなロスが出ているのかを見たときに、当然、上流側のロスというのが非常に大きなウェイトを占めるだろうというふうに見てはいるものの、よく実態はわからないよねと。それはせっかくできたものを、結局マーケットに出ない分というのがいくつかあるだろうとしたときにそういうものをどう評価するのかというところもあるとは思いますが、この辺も実は有効に使える資源があって、これをうまく活用できるという方向性を検討するというのはあるんじゃないかなと思っています。あと、食育の話とか、物がどうやって作られてどういうふうな食卓に来ているのかということも丁寧に

説明してあげるということも、無関心の人を巻き込むということについては有効策ではないかなと思っています。

(コーディネーター)

ありがとうございます。特に後半のほうのお話、興味深く伺いました。県内に色々な業者がありますので、サプライチェーン全体の視点で、実は使われていないという物がちゃんと回っていくような仕組みを作ることを考えたら良いのではないかと、というようなお話もあったと受け止めさせていただきました。

それではセブン-イレブン・ジャパンの植木様お願いいたします。

(セブン-イレブン・ジャパン)

よろしく申し上げます。今色々伺っておりますと、やはり考えていらっしゃる事が大分集約されて同じ方向性を向いているということじゃないかなと感じております。規格外のことですとか消費者教育ですとか、子どもたちの教育ですとか、将来の消費者という考え方で、そういったことも必要かなと思っています。

そういった中で今年度進められている「てまえどり」についてもお声掛けいただきまして、昨年12月に続きまして今年度6月でもPOPの取付けをさせていただいて、私どもの考え方としましては、消費者教育、食品ロスに関する教育は、継続していかないといけないと、1年2年3年くらいでは全く何も動かないというところから、今回は船橋市さんが「てまえどり」のPOPを市として作りたいといったお話がありまして、それを進めているといった状況になっています。

フードバンクさんについても、以前からお店が閉店したり場所が変わる際に、食品関係が相当お店に残ります。それを、千葉市の社協さんと連携させていただいて、社協様に寄贈させていただき、施設の方々やいろんな方々に配布いただいているといったことを何年も続けさせていただいているんですけども、つい最近、大学生の生活がコロナ禍で大変厳しいといったことで、食品もそうなんですけど、衣料品がないといったところから、私どもの千葉の事務所の社員の中で衣料品を集め、寄贈するという事で、ある程度の量を配布することができました。千葉市社協さんを経由して千葉の大学生の手に渡すということができました。食品ではないのですけれども、そういった活動も行って

います。

あと千葉県の農産品関係を活用させていただいて、商品開発をしたいといった申し入れをさせていただいております。私ども毎週100種類くらい新しい商品を出しているんですが、その中で地元の食品、地産地消の商品を販売していきたいといったことで、もし千葉県で出せばチーバくんを付けてとよってくるのですが、直近でもそういった商品を販売しています。農産品であれば規格外品が大変な量ありますので、形が悪いといったことだけで流通に乗らないというものについては、ジュースにするとか、いろんな形で加工して、それを商品に変えていくといったことを行っております。加工工場というのは、千葉県はほとんどが海に囲まれていて、魚の取扱いも相当多いわけなんですけれども、魚の加工工場もいかなのかなといったところもありまして、先ほどの県内で循環させるという考え方の中にそういった考え方を持って行ってもよろしいのかなというふうに思いました。

また今後もネットワーク会議も継続して参加させていただき、勉強させていただきたいと思っております。

(コーディネーター)

ありがとうございます。現在の取組の状況等色々教えていただきまして、コンビニならではの取組をよく理解することができました。また、県内で循環させるという、たくさんいただいている意見ですけれども、何か一つ見えてきそうな気がいたしました。

それでは続いて、県社協の会田様よろしくお願いたします。

(県社会福祉協議会)

千葉県社協会田です。よろしくお願いたします。

社協といたしましては、コロナが始まった後から特例貸付というものを実施しております。千葉県内でも約12万件の貸付を実施している状況です。生活に困窮して、食品についてもやはり足りないと、食べるものがないという方も多数いらっしゃって、社会福祉協議会のほうでも直接フードバンクをやったり、フードバンクさんの御協力をいただいて食品を提供したりというような取組をさせていただいております。企業さんのほうではフードロスがないに越したことはないとは思いますが、助かっている

方はたくさんいらっしゃると思います。フードバンクちばの菊地さんのほうがもちろん、専門でやられていますけれども、社協としてもそういった困窮されている方にできるだけ食品を無駄なく循環していければと思いますし、社会福祉協議会としてできることを、食品の提供だけではなく、その方の自立支援、生活を改善できるような支援も必要だと思います。

また、ロスが出ないように、食育をとといった話も出ておりましたし、私どもとしても福祉教育などを通じて、生活が苦しい時に、どこに相談すればよいのかといったことも含めて、色んなものを相談窓口において拡げていけたらなど、聞いていて思いました。

(コーディネーター)

ありがとうございます。それではフードバンクちばの菊地様、お願いいたします。

(フードバンクちば)

フードバンクちばは、今年で活動して10年になるわけですがけれども、食品関連企業さんをはじめとした企業等から食品を御寄付いただく、または、御家庭で余っている食品を御寄付いただいて、生活にお困りの世帯に無償で提供させていただくといった活動をしています。

今回アンケートをとっていただいた結果、途中のところですがけれども見せていただいて、特にコロナ以降、フードバンクへの関心が非常に高く、企業様からの問合せは結構たくさん来るようになってきておりました、その意味ではかなり知られるようになってきているのかなと思っていたのですが、この結果を見るとやっぱりフードバンクの活動はまだまだ知られていないなというのがよく分かりました。どういう企業様にアンケートをとっているかによるとは思うのですがけれども、直接フードバンクに出せるようなものがない企業様は当然あまり関心がないだろうなというふうに思います。

今フードバンクに食品を寄付していただいている企業さんがどういうところかという、実は食品企業がそんなに多いわけではなく、一般の企業さんから防災備蓄食品の寄付についての問合せが非常にたくさん来るというのが実態です。5年くらいで入替となり、残り半年とか3か月となったところで入替をするときに、寄付いただいて残った時間を使わせていただくというようなケースがすごく増えています。そのほかには、最

近は流通系の企業様、卸売とかスーパーの皆様から、これはその企業の商品というよりは、スーパーの店頭でフードドライブをやって、それを寄付いただくとか、というような取組が非常に増えている、全国規模のチェーンなどでもそういった取組をされているところが増えてきています。食品メーカーさんからの寄付は、あるんですけどもやはり今までの話を聞いてもいろいろな意味で、ここの部分の御寄付をいただくのはなかなか難しい面もあるのかなと思います。一番多いのはやはり賞味期限の問題で、もう販売できなくなっていただくということですのでけれども、その前に、もっと安く販売するとかいろいろなこともあって最終的にフードバンクということになるのかもしれませんが、なかなか食品メーカー様から直接というのはそんなに多くないというのが実態です。

あと、アンケートのことでいうと、「今後協力できそう」というような回答をさせていただいているところがあって、それはちょっと励まされる、それも食品の寄付だけではなくて、資金的な協力とか社員のボランティアみたいなことも含めて検討いただけるのだとすると、もう少しこちらから色々御提案もしたいなと思うところはあります。

そのほかでいうと、今ちょうど夏休み中で、今日はコープみらいさんもいらっしゃいますけれども、生協さんとかも含めて、夏休みのお子さんのボランティアとかそういうのでフードバンクに来ていただいている、今は小学生から皆SDGsを学校で勉強していて、食品ロスの問題もすごく関心が高いとかよく勉強されていると思います。私たちが子どもの頃にはとてもやっていなかったようなことを学んで、食品ロスのごことは当然知っているみたいな中で来られているということもあって、そういう意味ではフードバンクとかは直接見聞きしたりするにはちょうどいい場所なのかなと思って、受入れさせていただいたりということもしています。

あと、最初のほうにあった千葉県での特徴がどういうものがあるかという、私たちフードバンクをやってみて、一番思うのは、実はお米の寄付がものすごく多いということです。これは、市町村社協さんを通じて年3回、地域で御家庭で余っている食品を集めるフードドライブを実施しているんですが、ちょうどこの後9月にまたやるんですが、9月の時期に毎年やっていると、お米が大量に寄付されます。やっぱり千葉県は農業県で、米どころもいっぱいあるのですが、昨年度米（令和3年度米）を農家さんが自家保有していて結局食べなかったというものが、この時期になるとフードバンクに大量に寄

付されてくるというような状況がございます。実はお米はすごく余っているんじゃないかなというふうに思っております、特に去年とかは外食産業の問題もあつたりして余っているんじゃないかなとは思いますが、それにしてもフードバンクを始めた10年前からお米だけには困ったことがないというような状況でして、こういったものをどう活用していくのか、とてもフードバンクでは使い切れないのでお断りしているような状況もあつたりしています。あとは保管・管理がとても大変、重たいということもあつて場所も取るのでそれも、あまり使えていないということもあります。この辺りについては、県としても何か考えていただけることがあればなと思います。

今回のこの会議は主に企業さんが中心に参加されていますが、フードロスには実は4割くらいは家庭から出ていると言われておりますので、その辺り、私たちもかなり御家庭で余っている食品、実はフードバンクちばでは御家庭から出る食品ロスのほうが多いくらい集まっています、この辺のところをどういうふうにやっていくのが結構大変、細かいものがたくさん出てくるので大変という面もあるんですけども、その辺りを県としても色々御検討いただけないのかなと思います。

(コーディネーター)

ありがとうございます。フードバンクの現場でお米の問題とか、それから家庭ロスに対しても少しアプローチしたらどうかというような御提案をいただきました。

それではコープみらいの重田様、お願いします。

(コープみらい)

よろしく申し上げます。コープみらいでも「てまえどり」を身近に感じただけのよりに、コープみらいのお店に掲示するPOPのイメージキャラクターを組合員ボランティアに募集したところ、「コンビニで見かけるチーバくんのでしょ」と皆さん「コンビニのチーバくんのてまえどり」というのが浸透していたのにびっくりしました。身近に感じてもらうためにてまえどりの募集をしたのですが、先ほど菊地さんがおっしゃっていたように小学生のほうが浸透しているようで、大人の方がなかなか浸透していないのかなというふうに感じました。「てまえどり」という言葉は知っていても「てまえどり」って何をどういうふうにするかという根っこのところをもう少し伝えていくと広がるん

じゃないかなというのが、「てまえどり」の募集をしたときに感じたことです。あと、フードバンクさんのほかにコープみらいから社協さんへ生活困窮者支援を目的としたお米の寄贈を行っていて、そこから地域の子ども食堂にもお米の提供が広がっていますので、引き続き応援していきたいと思います。

(コーディネーター)

ありがとうございます。それでは、今日御参加の委員には皆様御発言をいただいたんですけども、県のほうから何かコメント等ありますか。

(事務局)

皆様から率直に大変貴重な御意見をいただきました。実はほかにももっともつとあるということだとは思いますが、そういった中でも今日いただいたお話というのはどれも参考になるなということを感じています。もっともつと我々が実情というか実態というかそういったところを、机上の数字だけではなくて、この会議だけではなくて日々のやりとりの中でもっと率直な話をお伺いさせていただくとか、そういったことが大事かなと思った次第です。たとえば、いくつかこうやっていただいた御意見の中で、需要予測というところではICTをうまく使っていくという現代のトレンドに近づいていくということだと、環境のきれいな話だけしていてもしょうがない、技術的なところをしっかりと理解していかないといけないとか、3分の1ルールを2分の1にしていく、この業界の慣習というところを、どういうふうにアプローチすればそういうふうになっていくのかなとか、あとは県内で何か皆さんの力を借りながら、何か試しにやってみる、言葉だけではなくて具体的にモデルを一つ作って実際やってみせてみるというところを、何かアイデア出しをするのかなだとか。あと、イオンさんのほうからもお話がありましたけれども、規格外野菜とかっていうのは実際排出している当人があまりもったいないと思っていないというのが実際ありまして、傍から見ているとそれ捨てるのもったいないですよみたいなことを言うんですけども、当人が別にいいんだよと言っていればそれで話が実は終わってしまうみたいなこともあるので、そのところを「実はそれはすごい価値があるんですよ、なのでやってみませんか」みたいな働きかけを生産者の方たちに率直に問いかけていって、何か効果的なものを作っていくとか、

あとはやっぱり子どもへの教育の部分であつたりとか、先ほどお米の話がありましたが、聞いていて筆筒預金みたいなそんなイメージを持ちましたけれど、家庭に眠っている食材をやはり吐き出してもらおうというその働きかけというのをもっともっと直接的にやっていくということもあるのかなとか、今日いただいたものをもう1回確認しながら色々と考えていきたいなと思います。また考えたものを可視化して、皆様にお示しさせていただいて、先ほどの渡辺先生のほうからの「インプットされなければ何も話せない」というお話がありましたけれども、正しくそれだと思いますので、何か一生懸命考えて御提示させていただきたいなというふうに思った次第です。

(コーディネーター)

ありがとうございます。それでは、ほかに皆様の方から御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。皆様、私のほうからも、貴重な御意見をいただきましてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。今もお話ありましたけれども、県内で色々新しく食品ロスが問題になっているところを見つけ上げていって、それを県内で循環させていくようなモデルをこういったネットワークを通じて作っていったらなと、そういった方向を目指すべきなのかなということ、県の特性を聞いた上で、私も考えさせていただきましたので、県のほうと一緒に今後の施策を考えていきたいと思っております。引き続きよろしく願いいたします。

では意見交換はこれで終了させていただきます。御協力ありがとうございました。司会を事務局にお戻しいたします。

(事務局)

石川様、どうもありがとうございました。皆様も、御意見ありがとうございました。ここで事務局を代表しまして、副課長の三田のほうから最後一言皆様にお伝えさせていただきたいと思います。

(事務局 県循環型社会推進課 副課長)

皆様、今日は長時間ありがとうございました。石川様、本当に今日はありがとうございました。

いました。少しテーマがしっかりしていない中で、議論が難しい中で皆さん色々な話を
していただきまして本当にありがとうございます。各社の考え方だけでなく、色々な
動向までお話いただきまして、我々としては色々勉強にさせていただいております。
ネットワーク会議という形の会議ですので、いつでもアイデアですとか意見ですとか、
お寄せいただきたいなと思っております。また、何かこういう場で共有したいことなど
ありましたら、ぜひ遠慮なくお伝えいただければと思っています。

また今回、久保田からもお話しましたとおり、色々これからまた私どももまた検討し
てまいります。特にお話の中にもありました家庭向けにどうするかという話も色々検討
していかなければならないと思っています。そういった中身の御相談も色々させていた
だきながら進めてまいります。どうぞよろしく申し上げます。

【閉会】

(事務局 県循環型社会推進課 副課長)

次回は、先ほど申し上げましたとおり、アンケート結果の集計をある程度済ませた
12月か1月頃を予定したいと考えておりますので、御多忙のところ恐縮ですけれども
ぜひ御参加くださいますようよろしくお願いいたします。

では、今日は長時間ありがとうございました。これをもちまして、今年度第1回目の
千葉県食品ロス削減ネットワーク会議を終了いたします。御協力ありがとうございました。